

江南市 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定にかかる

## 地域福祉懇談会

### 【結果報告書】

#### 【目次】

1	開催概要	1
(1)	開催目的	1
(2)	地域福祉懇談会の全体像	1
(3)	開催日時と参加者	2
2	地域福祉懇談会の結果報告	3
(1)	西部中学校区	3
(2)	古知野中学校区	7
(3)	宮田中学校区	14
(4)	布袋中学校区	23
(5)	北部中学校区	31

# 1 開催概要

## (1) 開催目的

中学校区ごとの課題や困りごと、その解決策を地域住民・活動主体者に話し合っただくことで、今後の小地域福祉活動の基盤づくりを進めるためのきっかけとしていくために、地域福祉懇談会を実施しました。

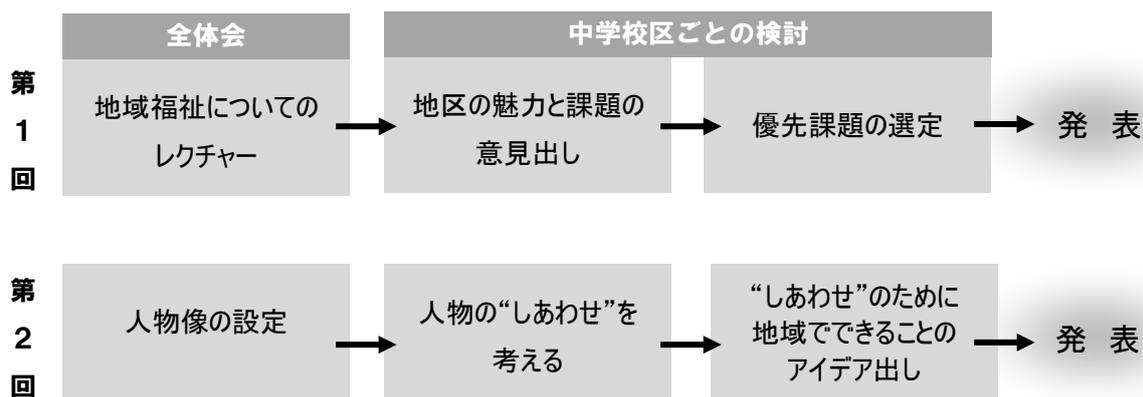
## (2) 地域福祉懇談会の全体像

地域福祉懇談会は、中学校区ごとに、全2回のプログラム(第1回目は合同実施)で実施しました。

まず第1回目では、中学校区ごとの検討に入る前に、全体会として、日本福祉大学柏原先生より地域福祉のレクチャーをしていただきました。

参加者の皆様に、地域福祉や小地域福祉活動の必要性などの前提についての認識を深めていただいた上で、中学校区ごとの部屋にわかれ、身近な地域における魅力や課題について話し合っただきました。そのなかでも、特に地域福祉計画・地域福祉活動計画の計画期間である今後6年間で特に力を入れていくべき「優先課題」を選定していただきました。

第2回目では、第1回目で出た課題を「人物像」として整理し、「課題を抱えている〇〇さん」という具体的な人物を想定しながら、その人やその人を取り巻く周囲の人に対して、地域として何ができるかを考えていただき、グループごとに発表していただきました。



### (3) 開催日時と参加者

参加者は、広報こうなんや市ホームページで広く募集し、民生委員・児童委員や区・町内会、福祉団体など活動主体者を中心に参加いただきました。

第1回、第2回の開催日時と参加人数は以下の通りです。

	開催日時	開催場所	実施校区	参加人数
第1回	1月22日(日) 10:00~ 12:30	江南市役所(全体会) 3階 第2委員会室	全 体	西 部 : 11 人 古知野 : 24 人 宮 田 : 28 人 布 袋 : 20 人 北 部 : 28 人
第2回	1月31日(火) 19:00~ 21:00	古知野西公民館 1階 会議室	西部中 学校区	20 人
	2月 2日(木) 19:00~ 21:00	中央コミュニティセンター 2階 会議室	古知野中 学校区	21 人
	2月 7日(火) 19:00~ 21:00	宮田地区学習等供用施設 2階 集会室	宮田中 学校区	32 人
	2月 9日(木) 19:00~ 21:00	布袋ふれあい会館 2階 第2~第3会議室	布袋中 学校区	19 人
	2月14日(火) 19:00~ 21:00	古知野北部地区学習等供用施設 2階 大集会室	北部中 学校区	30 人

## 2 地域福祉懇談会の結果報告

### (1) 西部中学校区

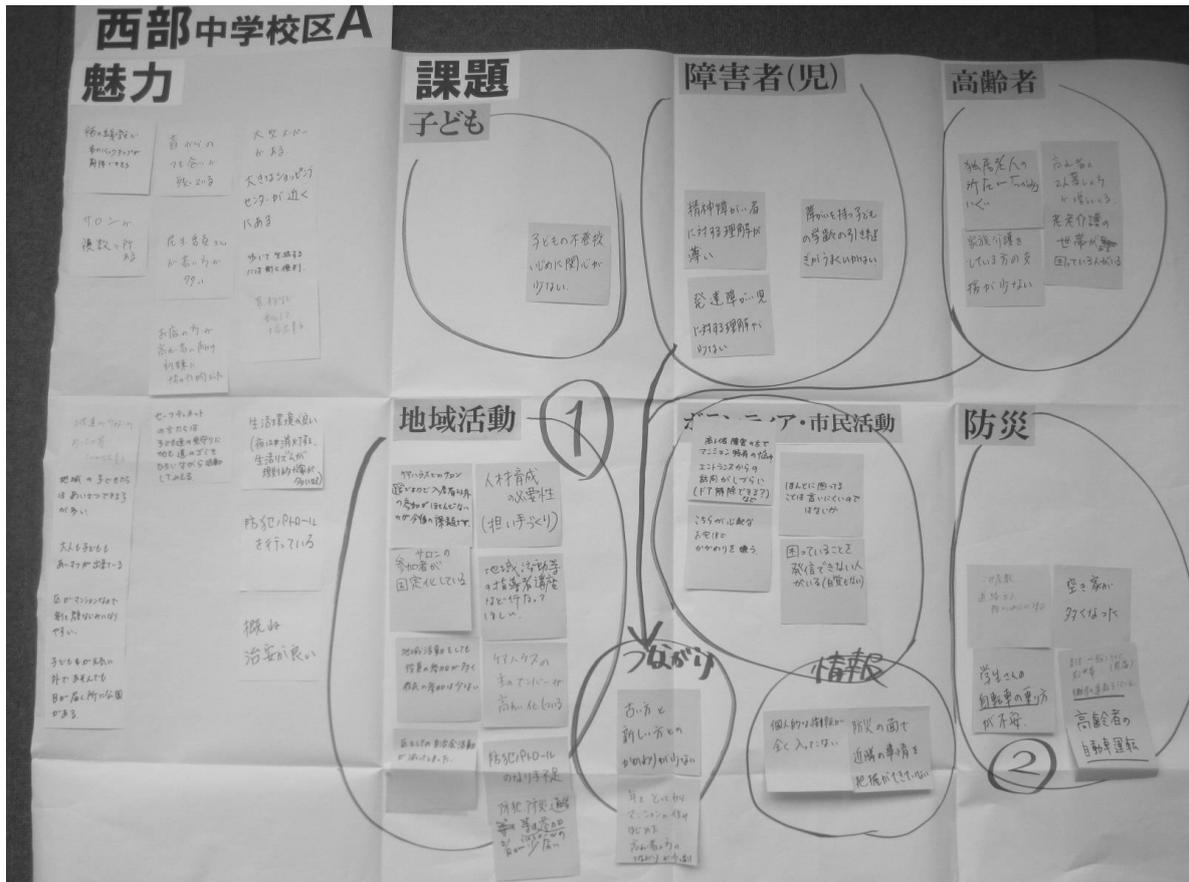
#### ① 第1回の結果

西部中学校区では、特に「地域活動」「防犯・防災」の分野に多くの意見があげられており、今後6年間で取り組んでいくべき優先課題としても選定されています。

「地域活動」の部分では、魅力としてもあげられているサロン活動等の強みがありながらも、参加者の固定化・なり手不足といった点が課題となっています。その背景として、昔からの住民と新しい住民との交流の不足等による、地域のつながりの限定化が考えられます。ふれあい・いきいきサロンや防犯パトロールなど、地域活動は行われているものの、地域全体での活動には至っていないことが課題となっています。

また、「防犯・防災」の分野では、主に自転車マナーの低下、高齢化による運転の不安などについて意見があげられました。また、「安全な暮らしづくり」という点では、困っている人がいるかもしれないが、個人情報との兼ね合いでその把握ができないことも課題としてあげられています。

どの分野の課題についても「つながり」の部分にリンクしてくることから、地域活動の活発化により地域のつながりづくりを推進していくことの重要性がより認識された結果となりました。



## ② 第2回の結果

第1回の結果を受け、2つの優先課題・2人の登場人物を設定し、それぞれAグループ、Bグループで話し合っていました。

### 【Aグループ】

#### ア. 優先課題 「地域活動の活性化（参加者の拡大・担い手の育成）」

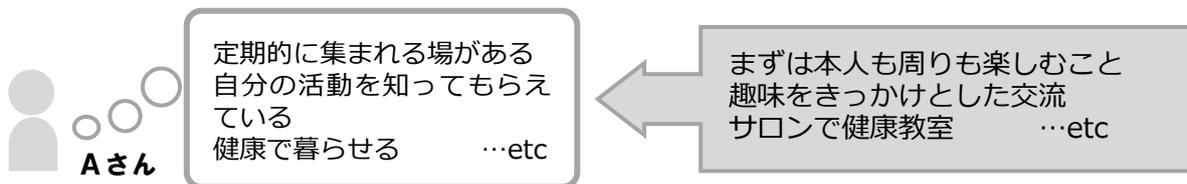
このような優先課題を抱えている人物として、意欲を持って地域活動に参加している女性を設定しました。なかなか活動の担い手が増えない、参加者が増えない課題を抱えている人物です。

#### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「定期的に集まれる場があること」、「自分が活動内容をうまく周りに伝える方法があること」、「健康で暮らせること」などがあげられました。

#### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

Aさん自身が趣味を持ち、そこから人との輪を広げていくこと、また行事や活動に「楽しい」「面白い」という視点をもっと足していくことで、本人自身もやりがいを持って活動でき、また参加者も広がっていくのではないかという意見があげられました。また健康については興味を持っている人が多いため、サロン活動の参加者を拡大していくためには、サロンで健康教室などをやってはどうかという具体的なアイデアも出ました。



### 【Bグループ】

#### ア. 優先課題 「安全・安心な地域づくり」

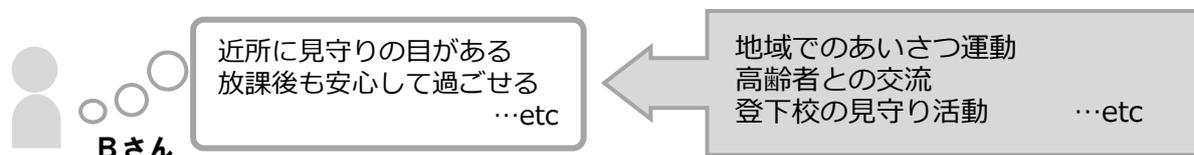
このような優先課題を抱えている人物として、近所の道を通って学校に通う小学校低学年の子どもを設定しました。

#### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「近所の人とあいさつし合えること」、「放課後一人で過ごすことがないこと」、「見守りの目があること」、「子どもが家で、親に1日あったことを話せること」などがあげられました。

#### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

地域でのあいさつ運動、高齢者サロンを活用した子どもの居場所づくり、登下校の見守り活動などがあげられました。



## 優先課題①地域活動の活性化(参加者の拡大・担い手の育成)



Aさん

- ・意欲を持って地域活動に参加している女性。(サロン活動、防災パトロールなど。)
- ・70歳代。自身も周りも高齢化しており、新しい参加者もなかなか増えていかないことから、このままだと活動自体がなくなってしまうのではないかと不安に感じている。
- ・高齢になってからマンションに住み始めた方や、転入してきた若い世代とは交流の機会がない。そのため、そういった層には声がかげづらく、活動参加者の広がりが無い。関わりがないために、困りごとを抱えている世帯を把握できていないのでは、という不安もある。

### Aさんのめざす“しあわせ”とは？

- ・地域の役員への積極的参画
- ・地区の行事に出かけると、外に出ることに自信がつくと思う
- ・日常における交流活動
- ・新しい活動の研究・開発へ意識を変える
- ・自分が関われる活動を増やす
- ・固定した内容より、毎回、魅力的な講座があると良い

- ・定期的集まれる、楽しい場所をつくる
- ・自分を必要とする方々とのコンタクトを考える場所があると良い
- ・新しい活動の研究・開発へ意識を変える

- ・サロン活動の内容を多くの人に知らせるために広報を利用すると、多くが集まれるか
- ・サロン活動参加者が増えてくようになれば、幸せを感じる
- ・新しい人達と一緒にできることを考える
- ・地域活動への市(協会)からの応援
- ・若い方の参加

- ・健康が一番だから、それに関わることで幸せを感じるのではないか

- ・自分が望む地域社会で暮らしたい
- ・干渉されず、干渉せずの人生は味気ないと思っている人
- ・自分が中心になってやりたいとは思っていない
- ・適度な流れのなかで、ゆらゆらと生きたい

### Aさんの“しあわせ”に向けて西部中学校区でできることは？

- ・認知症、徘徊者への声掛け訓練は面白い
- ・町内当番持ち回り
- ・楽しいイベントをする
- ・野菜作り(畑提供、道具提供、趣味)
- ・自分の趣味があったら、周りにもどんどんアピールすると交流もできる
- ・参加する時期やタイミングを待つ
- ・高齢者が最も関心のあるものを探る
- ・各種団体・クラブ等の組織を利用した話し合い
- ・お茶を飲むだけの場があるといい

- ・サロン活動の対象者を拡大するために、市の保健婦さんに健康教室のようなものを開いてもらう
- ・血圧を測定した後に、体操教室 or ヨガ教室

- ・行事は面白くやろう
- ・自分の周りが楽しくしてくれるのではなく、何か一つでいいから奉仕の精神で役に立つとか思うと良い
- ・参加する人も仕掛ける人も楽しくやろう

## 優先課題②安全・安心な地域づくり



Bさん

- ・近所の道を通って学校に通う小学校低学年の子ども
- ・親は共働きで平日昼間は家にいない。
- ・家の近所に通う自転車マナーが悪い高校生や、高齢ドライバーなどにより、登校時に危険な思いをしたことがある。
- ・大人が誰もいない道を通ることも多い。防犯上の理由から、知らない人と話してはいけないと言われており、近所の人と挨拶を交わすことも少ない。

### Bさんのめざす“しあわせ”とは？

- ・安心感の持てる笑顔が大事
- ・近所の方々と顔見知りになる
- ・近所の人達と仲良くして、挨拶などいつもする
- ・知らない人から知っている人へ
- ・近所が挨拶しあえる
- ・地域の人と挨拶ができる
- ・子どもを見たら、声を掛ける（お帰り等）

- ・平日、学校終わりに家以外で集まれる場
- ・下校後に一緒に過ごす人がいる
- ・家族が帰る頃まで、安心できる居場所づくり

- ・地域内での自転車の乗り方講習を行う
- ・高校生の自転車運転のマナーが良くなる（気遣い）
- ・安全・安心で大人の気配り。時間がある人が対応しやすい方法で子どもを守る
- ・夜間照明を多くする（防犯）

- ・危険な場所のマップ作りをする
- ・通学路をきちんと守って歩く
- ・地域での見守りネットワーク
- ・高齢の方と小学生と一緒に活動できる
- ・カギっ子のようなので、近所同士で見守る
- ・子どもが家に帰ると、親に1日あったことを話せるような地域

- ・高学年がリードする
- ・親（母はメール等で連絡をとる）

### Bさんの“しあわせ”に向けて西部中学校区でできることは？

- ・地域であいさつ運動をする

- ・地域のごみ拾いに子どもも参加（顔馴染みになる）
- ・学校帰りにサロンで過ごす
- ・高齢者さんのサロンを利用して、子どもの居場所を作る
- ・高齢者と子どもと一緒に話せる居場所
- ・トワイライトをなかったらつくってほしい
- ・トワイライトを利用する（学校の空き教室など）
- ・「古西っ子」と呼んでもらっている。小学校行事に積極的に参加する
- ・学校と地域とのつながり

- ・セーフティネットの人数を増やす。なり手不足
- ・時間にゆとりのある方の登下校の見守り運動
- ・家の前に顔を出して、挨拶をするなど
- ・防犯パトロールのなり手不足
- ・ユニークな防犯。立て看板を立てて、見守られているという安心感を与えてほしい。その他、地区行事を増やす
- ・高齢者の介護予防も兼ねて、一緒に下校する
- ・学校終わりに防犯パトロールさんに関われる遊び場づくり

## (2) 古知野中学校区

### ① 第1回の結果

#### 【Aグループ】

古知野中学校区Aグループでは、特に「子ども」「高齢者」「地域活動」の分野に多くの意見があげられており、今後6年間で取り組んでいくべき優先課題としても選定されています。

「高齢者」の分野では、高齢者のみの世帯の増加が課題としてあげられています。生活の利便性が魅力としてあげられている校区ではあるものの、校区内でも交通の便などに差があり、一人暮らし高齢者の外出に不便が出ているところも見受けられます。また、一人暮らしで認知症を有する高齢者の増加等も懸念されています。困りごとを抱えている世帯へどう介入していくか、という支援をする側の課題もありつつ、高齢者自身がどう暮らしていくかをイメージしておくことが大切である、という意見もあがっています。

「子ども」の分野では、子ども・親同士の交流の場の不足が課題としてあげられています。特に未就園児の子ども同士、親同士の交流が少なく、子育て支援センターが近くにないために地域での交流ができない世帯があることが課題となっています。

「地域活動」の分野では、地域のコミュニケーション不足が課題としてあげられています。居住年数の長い住民が多く、地域としてのまとまりのよさが魅力としてあげられている一方で、転入世帯が地域に溶け込みにくいのではないかと、という課題もあがっています。転入してきた世帯は地域とのつながりが薄く、また、世帯の高齢化が進行している一方で、若い世代も減少しているために、異世代交流の機会も減少していることが課題となっています。

#### 【Bグループ】

古知野中学校区Bグループでは、特に高齢者・障害者の分野に関して、集いの場が不足していること、移動手段が不足していることが課題として多くあげられました。

集いの場の不足については、魅力としてサロン活動の充実をあげている声もあるものの、交通手段等の関係から一人で参加できない人も多くなっており、サロン等の集いの場の充実とともに、移動支援も含めた参加促進も必要となっています。

また、集合住宅に住んでいる高齢者については、情報が入ってこず、どのような課題を抱えているかが把握しづらいことが課題としてあげられました。

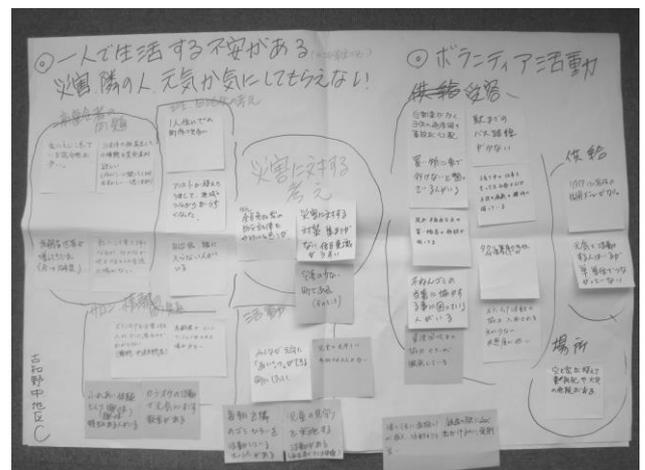
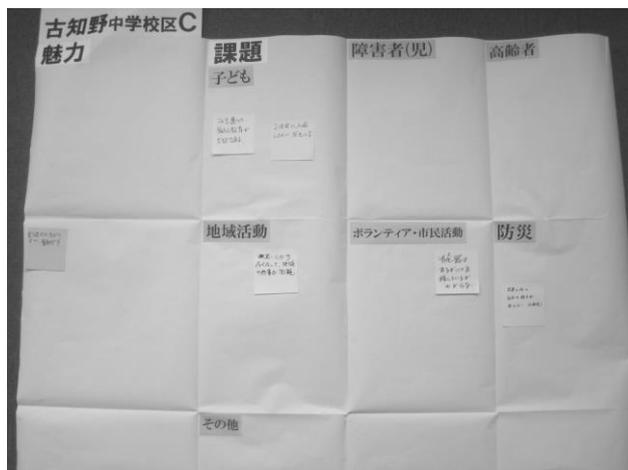
その他、Aグループと同様、転入してきた世帯は地域とのつながりが薄いことも課題としてあげられています。

#### 【Cグループ】

古知野中学校区Cグループでは、ボランティア活動等の活発化が魅力としてあげられている一方で、その担い手の不足や、需要とのミスマッチが課題としてあげられています。需要としては、子どもの通学時の見守りや、移動支援、買い物支援、ゴミ出し当番の担い手の拡大等、様々なニーズがあげられていますが、その担い手が不足していること、またそういった需要を持つ人がどこにいるのか情報が得られないことが課題となっています。供給側の課題としては、退職後の年代の方で、元気で活躍する意欲がある人は多いものの、その活躍のためのメニューが明示されて

おらず、ボランティア情報なども十分に届いていないため、活かしきれていないのではないかと、という課題があがっています。

また、支援や見守りが必要な高齢者が増えてきているなかで、地域のつながりが希薄化しており、日常生活の不安に加え、災害時等の非常時における支援体制をどうしていくかが課題となっています。集合住宅や自治会に入らない人が増えていること、また支援が必要な高齢者等とコミュニケーションを取れる場が少なくなっていることで、近隣の状況の把握が難しくなっていることが課題としてあげられています。



## ② 第2回の結果

第1回の結果を受け、3つの優先課題・3人の登場人物を設定し、それぞれAグループ、Bグループ、Cグループで話し合っていました。

### 【Aグループ】

#### ア. 優先課題 「地域のコミュニケーションの不足・希薄化」

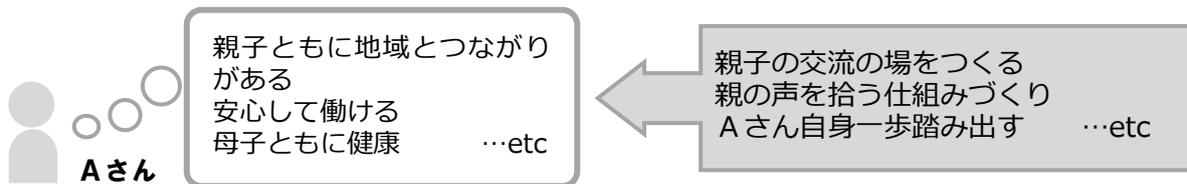
このような優先課題を抱えている人物として、就園前の子どもを持つ母親（転入世帯・核家族世帯）を設定しました。なかなか地域になじめず、親子ともに地域の人との交流機会が少ないという課題を抱えている人物です。

#### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「つながり」をキーワードに、「お母さん同士のつながりがあること」、「ご近所とのつながりがあること」、「子ども同士のつながりがあること」などがあげられました。

#### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

地域に「母親の世話人」をつくる、子どもと一緒に参加できる場・機会をつくる、そういう場についての情報を発信する、といった具体的なアイデアがあげられました。また、Aさん自身もそういう場に参加する勇気を持ち、一歩踏み出すことが大切なのではないか、という意見もあげられました。



### 【Bグループ】

#### ア. 優先課題 「生活に不安を抱える高齢者への支援」

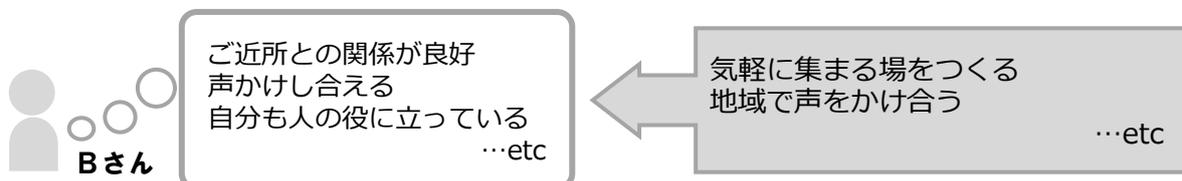
このような優先課題を抱えている人物として、30年以上集合住宅に住んでいる男性高齢者を設定しました。移動手段がなく外出に不便があり、近所づきあいもないために災害時などにも不安があるという課題を抱えている人物です。

#### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「声をかけあえる関係の人が近所にいること」、「自分が人の役に立つ、地域の役に立つこと」などがあげられました。

#### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

地域に気軽に集まる場をつくる（そこでの活動を生きがいにつなげる）、民生委員だけでなく、地域の人や地元業者（喫茶店等）を巻き込んだ地域内での声かけの促進、というアイデアがあげられました。



【Cグループ】

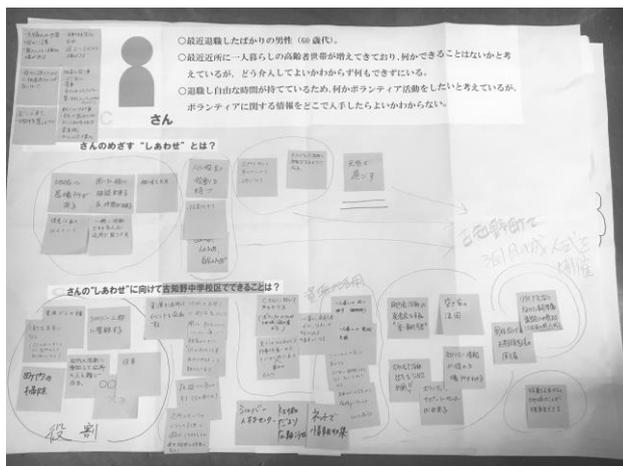
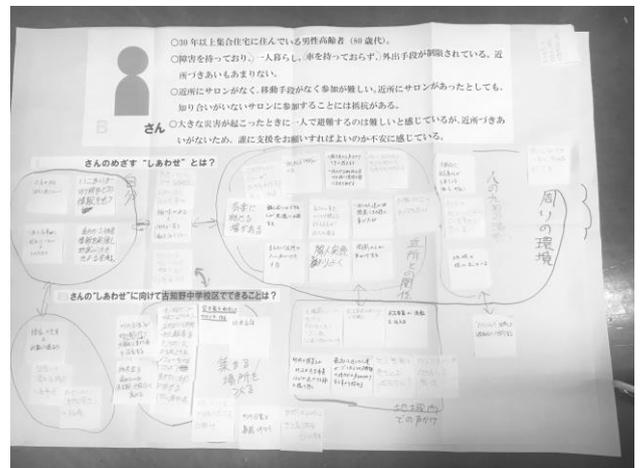
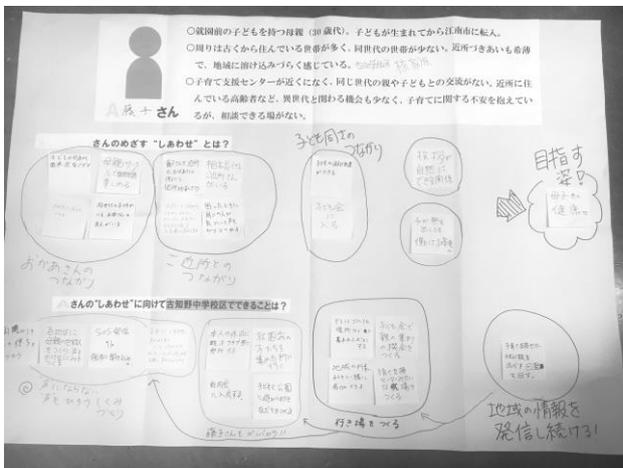
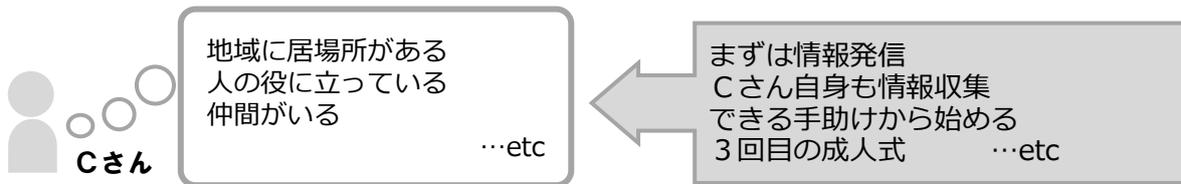
ア. 優先課題 「ボランティア活動の活性化」

このような優先課題を抱えている人物として、最近退職したばかりでボランティア意欲はあるものの、ボランティア情報の入手方法がわからない60歳代の男性を設定しました。  
 イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「地域に居場所があり、困ったときに相談できる人がいること」、「一緒に活動できる仲間がいること」、「人の役に立っていること」などがあげられました。

ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

ボランティアをしている人、地域活動者がまず情報発信をすること、地域資源を活かしたイベントの企画、SNSを活用したボランティア活動紹介、といったアイデアがあげられました。また、Cさん自身が取り組むべきこととして、まずとなりの人に声をかける、ごみ出し、新聞しぼりなどちょっとしたことから手伝ってみる、という意見が出ました。こうした退職世代の方に活躍いただく方法として、「3回目の成人式」をし、そこでリタイア生活に向けた事前講習会や男性向けのお料理教室を開催する、という具体的なアイデアもあげられました。



## 優先課題① 地域のコミュニケーションの不足・希薄化



Aさん

- ・就園前の子どもを持つ母親（30歳代）。子どもが生まれてから江南市に転入。核家族。
- ・周りは古くから住んでいる世帯が多く、同世代の世帯が少ない。近所づきあいも希薄で、地域に溶け込みづらく感じている。
- ・子育て支援センターが近くになく、同じ世代の親や子どもとの交流がない。近所に住んでいる高齢者など、異世代と関わる機会も少なく、子育てに関する不安を抱えているが、相談できる場がない。

### Aさんのめざす“しあわせ”とは？

#### 【お母さんのつながり】

- ・子どもの同年代の友達を探す
- ・母親サークルで楽しめる
- ・同世代の友人ができる
- ・同世代の子どもがいるお母さんの友人がいる

#### 【ご近所とのつながり】

- ・Aさんが近所のおばあさんと仲良くする（近所との挨拶）
- ・相談できるご近所さんがいる
- ・近所の人（同世代ではないおじさん、お爺さん、おばさん、お婆さん等）と気軽に話ができる
- ・困った時に周りの人が気付いて声を掛けてくれる

#### 【子ども同士のつながり】

- ・子どもの遊び友達ができる
- ・子ども会に入る

- ・挨拶が自然にできる関係
- ・子が熱を出しても働ける環境

### Aさんの“しあわせ”に向けて古知野中学校区でできることは？

#### 【・“声”にならない“声”をひろうしくみづくり

#### ・両隣の人の様子を気遣う】

- ・各地区に母親の世話人をつくり、声を掛けるしくみをつくる
- ・SOS発信 ≡ 強制聞き込み
- ・資源ゴミを出すときに声を掛け合い、どこのどなたかを知る → 次に会ったとき、気軽に声掛けができる

#### 【Aさんもガンパロウ！】

- ・本人の休日に親子クラブ等に参加する
- ・就園前の子達を集めた所に行く
- ・町内会に入会する
- ・子どもと公園に遊びに行き、友達をつくる

#### 【行き場をつくる】

- ・グランドゴルフの場所などで集まれるようにする
- ・子ども会で親の集まりの機会をつくる
- ・地域の行事に子どもと一緒に参加できる
- ・子育て支援センターみたいな場をつくる

#### 【地域の情報を発信し続ける】

- ・子育て支援センターの情報を流す。回覧板を回す

・母子ともに健康

## 優先課題② 生活に不安を抱える高齢者への支援



Bさん

- ・ 30年以上集合住宅に住んでいる男性高齢者（80歳代）。
- ・ 障害を持っており、一人暮らし。車を持っておらず、外出手段が制限されている。近所づきあいもあまりない。
- ・ 近所にサロンがなく、移動手段がなく参加が難しい。近所にサロンがあったとしても、知り合いがいないサロンに参加することには抵抗がある。
- ・ 大きな災害が起こったときに一人で避難するのは難しいと感じているが、近所づきあいがいないため、誰に支援をお願いすればよいのか不安に感じている。

### Bさんのめざす“しあわせ”とは？

- ・ 民生委員が何回も訪問し、信頼関係をつくる

- 【自分】**
- ・ お金がある（生活に困らない）
  - ・ 三度の食事に困っていない
  - ・ いこまいCAR利用などの情報を持つ
  - ・ 自分から独居情報を発信し、地域の力を頼る意識を持つ

- ・ お節介できる（好きな）人がいると、Bさんも幸せ
- ・ 趣味がある→仲間がいる。誰も邪魔しない
- ・ 出掛ける場所（公共施設 ex. 囲碁、将棋）

- 【近所との関係】**
- ・ 近所との関係
  - ・ ご近所がBさんへお裾分けする幸せ（機会）
  - ・ 気楽に話せる場がある
  - ・ 話し合える“仲間”がいる
  - ・ 話し合いのできる人が近隣に出現する
  - ・ 迷わず近所の人に声掛けをする
  - ・ 顔を見たら声を掛けて少し話しをする
  - ・ 知らないことをいつでも教えてもらえる人が近くにいる
  - ・ 隣人関係をより良く
  - ・ 住んでいる町内のいろいろな話しをして、気持ちをかき立てる
  - ・ 周りの人達が仲間意識を持つことが大切

- ・ 周りに子どもがいると、雰囲気ができる

- 【人のための活動】**
- ・ 定期的に社会奉仕ができて（物、金、行動）
  - ・ 自分が出ていくこと（外出）を幸せに感じる
  - ・ 地域の役に立っている

### Bさんの“しあわせ”に向けて古知野中学校区でできることは？

- ・ 給食の充実 → 社協の援助
- ・ 独居の方集まる機会 → 食事会
- ・ お節介（世話焼き） → 給食

- 【集まる場所をつくる】**
- ・ 町内会（長）が地区の集会所（コミュニティの場）で、定期的な集まる場を設定する
  - ・ 独居者を（民生委員が）定期的に集める
  - ・ 老人福祉センター、中央コミュニティセンター、各地区の公民館、地元集会場等を活用したより身近なメニューをつくることにより、生きがい活動につなげる（サロン、趣味の場）
  - ・ 空き家を利用して、サロンをつくる
  - ・ 幼老会館
  - ・ スタッフとしてやる気にさせる仕掛け

- ・ 町内回覧を毎週行う
- ・ 訪問するときは手土産（情報、ex. 回覧板）

- 【地域内での声掛け】**
- ・ 近隣でグループをつくる。あまり多くなく少人数（一人暮らしの様子がわかる）
  - ・ 民生委員の声掛け。区会議員
  - ・ 民生委員が情報伝える
  - ・ 町内の役員とか地元の民生委員などが近づけるように持つていく
  - ・ 最初は近くの人達のごみ出しとか不燃物の時などに、声を掛けたりすることから始める
  - ・ 地元業者を巻き込む（喫茶店も）
  - ・ ケアマネがいても付き合える関係

- ・ ボランティア組織を（積極的に）紹介する

周りの環境

## 優先課題③ ボランティア活動の活性化



Cさん

- ・最近退職したばかりの男性（60歳代）。
- ・最近近所に一人暮らしの高齢者世帯が増えてきており、何かできることはないかと考えているが、どう介入してよいかわからず何もできずにいる。
- ・退職し自由な時間が持てているため、何かボランティア活動をしたいと考えているが、ボランティアに関する情報をどこで入手したらよいかわからない。
- ・夫婦のみ世帯。母の介護。奥さんは活動の場がある ・活動時間は日中。週2～3日なら活動できる

### Cさんのめざす“しあわせ”とは？

- ・地域に居場所がある
- ・困った時に相談できる友、仲間ができる
- ・趣味を共有
- ・得意なことを伝えていく
- ・一緒に活動できる友人が近所で見つかる

- ・人に役立つ役割を持つ
- ・役割を持つ
- ・“世のため、人のため、自分のため”

- ・近所を歩くと声を掛けられる仲間になる
- ・ボランティア活動に参加できるようになる

- ・元気で過ごす

### Cさんの“しあわせ”に向けて古知野中学校区でできることは？

#### 【役割】

- ・資源ゴミの当番
- ・町内の掃除
- ・衛生委員になる（ごみの日にずっといて、近所の人と知り合いになる）
- ・シルバー人材に登録する
- ・〇〇委員をつくる
- ・町内の活動に参加して、近所の人と親しくなる

- ・Cさんに対して、声を掛ける（ボランティアさんや地域活動者から）
- ・まずはどんなイベント、行事でもいいので、とにかく家から外に出てもらう
- ・一人暮らし高齢者・頑固な方には、→ 受け止める → 親しくなる

#### 【資源の活用】

- ・資源を活用して、イベントを企画する
- ・地域のお祭りに、町会長さんに聞いて手伝いに行く
- ・組長の時に「何か手伝えることあったらやるよ」と組の人に言う
- ・夜回りに参加する（火の用心の）
- ・近所の4～7歳くらいの子どもと遊ぶ（その内、その母や祖母と仲良くなる）
- ・シルバー人材センター
- ・社協だより、広報こうなん
- ・ネットで情報収集
- ・一人暮らしの話し相手・電球交換
- ・隣の人の家に声を掛ける。ごみ出し、新聞縛りなどちょっとやってみる
- ・組の人の話から、病院、買い物に行くとき乗せていってあげる
- ・町内会活動の発表会をする。“良い事例学習”
- ・空き家の活用
- ・ボランティア活動紹介を SNS 利用
- ・知りたい情報が得られる場所がわかる
- ・ボランティアサポートセンターができる
- ・役員を6年やると、地域のことが理解できる

- ・古知野町で3回目の成人式を開催
- ・リタイア生活に向けた事前準備講習会への参加（3回目の成人式）
- ・男性向けのお料理教室の開催

### (3) 宮田中学校区

#### ① 第1回の結果

##### 【Aグループ】

宮田中学校区Aグループでは、「交通の不便さ」「一人暮らしの高齢者」「地区での参加」「買い物」「地区のPR活動」「防災」「下校（子どもの安全）」「敷地（耕作放棄地の問題）」「子ども（不登校問題）」の категорияで課題がまとめられており、そのなかで「交通の不便さ」「一人暮らしの高齢者」「地区での参加」が、今後6年間で取り組んでいくべき優先課題として選定されています。

「交通の不便さ」については、公共交通手段についての意見が多くあがっています。それに関連して、イベントや集会等が開催されても交通手段がないために参加できない人がおり、地域活動の活性化にも影響を与えていることが課題となっています。

「一人暮らし高齢者」の問題については、日常生活上の困難を感じている方、緊急時の不安を抱えている方の増加が課題としてあげられています。一人暮らし高齢者のサロン等への参加についても、本人の参加意思がなかったり、移動時や参加時にケガをしないようなケアをする必要があります。なかなか誘いづらい、という課題もあがっています。

「地区での参加」については、特にシルバー人材センター、老人クラブといった高齢の方を対象とした活動への参加の減少が課題となっています。また、高齢者に限らず単身世帯が増加していること、先にあげた交通手段の制限なども相俟って、地区会議等への不参加者が増えていることが考えられます。

藤まつりの開催される曼陀羅寺があることは魅力としてもあげられており、そうした場・イベントの機会を活かした市のPRが必要といった意見もあがっています。

##### 【Bグループ】

宮田中学校区Bグループでは、「少子高齢化による地区行事等への参加の減少」「一人暮らし高齢者の増加」「団地・アパート住民の増加によるつながりの希薄化」が、今後6年間で取り組んでいくべき優先課題として選定されています。

「少子高齢化による地区行事等への参加の減少」については、少子化による子ども会の組織の弱体化や、高齢化による担い手の減少を背景とした地区の行事（防災訓練、防犯パトロールなど）への支障が課題としてあげられています。また、地域での交流機会の減少という点では、同年代の子どもが少ないことにより親子同士の交流が希薄であること、障害のある人との交流機会の少なさも課題としてあげられています。

「一人暮らし高齢者の増加」はAグループと同様の課題としてあがっており、元気な高齢者が多いものの、特に男性高齢者が楽しめる企画や交流の場が少ないこと、活動に参加するための交通手段がないことが課題となっています。藤ヶ丘地区におけるふれあいサロンの取り組みが魅力としてあげられていることもあり、活動内容の充実と活動への参加促進が必要となっています。

また、「団地・アパート住民の増加によるつながりの希薄化」にも関連する問題として、隣近所での顔のみえる関係がなく、相互扶助機能が低下していることから、一人暮らし高齢者の孤立の可能性も指摘されています。

魅力としては、自然の豊かさやゴミ出しなど住民モラルの高さを指摘する声も多くあがっています。

### 【Cグループ】

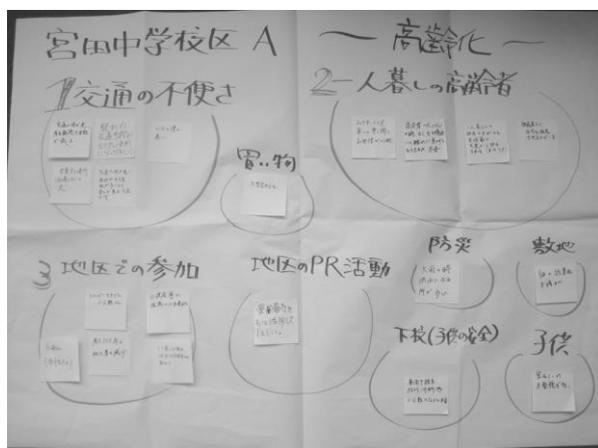
宮田中学校区Cグループでは、「活動への参加者の少なさ」「移動手段の制約」「ペットの飼い主のマナー」「施設環境の整備（トイレの問題など）」「緊急時の対応」「子ども」の категорияで課題がまとめられており、そのなかで「活動への参加者の少なさ」「移動手段の制約」「ペットの飼い主のマナー」が、今後6年間で取り組んでいくべき優先課題として選定されています。

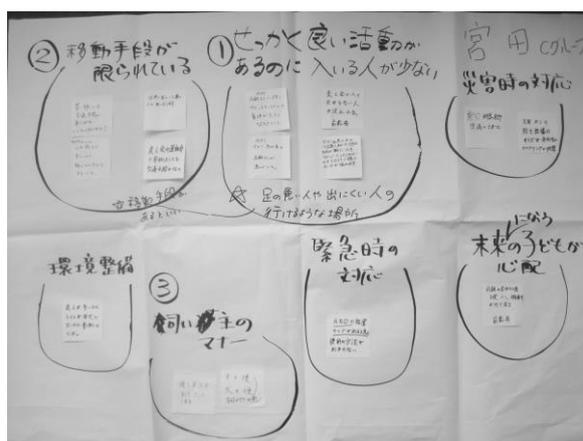
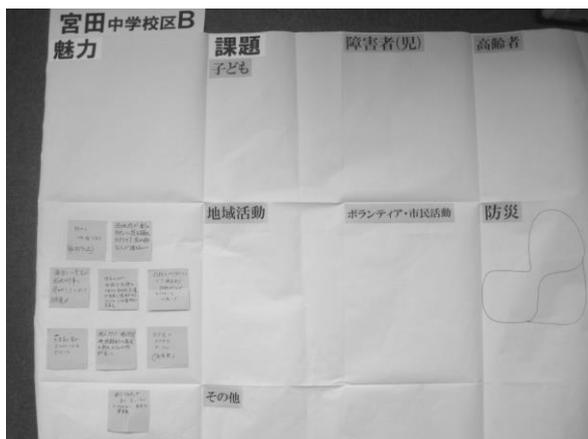
特に高齢者に関する活動については、サロンをはじめ良い活動をしている団体は多いものの、その良さが多くの人に伝わっていないという課題があります。場所や内容を周知し、健康な人もそうでない人も気軽に参加できるようにしていくことが必要となっています。「老人会」を「長寿会」のような前向きな名称に改めることで参加者も増えるのではないかと、という意見もあがっています。一人暮らしの高齢者は誘ってもなかなか参加していただけないという現状もありますが、周囲とのコミュニケーションを図ることが詐欺被害の防止にもつながることから、様々な活動への参加促進を進めていくことが重要となっています。一方で、サロンスタッフの高齢化の問題もあり、運営側の裾野の拡大にも取り組んでいく必要があります。

サロン等への参加促進に関連し、気軽に参加してもらうためには、足が悪くて移動に制限がある人、金銭的に厳しい人でも参加できるような移動支援が必要であるという意見もあがっています。

飼い主のマナーがよくないために、猫や犬の糞尿被害を受けている人が多い、という課題もあがっています。ペットの飼い主のマナーについての話に限らず、人の迷惑を顧みない行為をしている人は様々な場面でみられるため、飼い主のマナーを通じて回りを思いやれる地域づくりが必要ではないかという意見があがっています。

その他、共働きの増加に伴う子どもだけで留守番をしている家庭の増加や防災意識の希薄さなども課題としてあげられました。





## ② 第2回の結果

第1回の結果を受け、3つの優先課題・3人の登場人物を設定し、それぞれAグループ、Bグループ、Cグループで話し合っていました。

### 【Aグループ】

#### ア. 優先課題 「一人暮らし高齢者の増加」

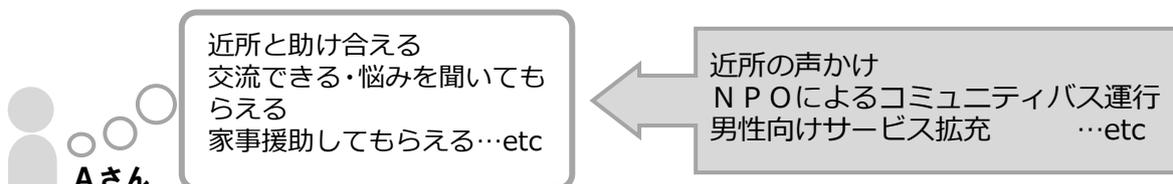
このような優先課題を抱えている人物として、妻を亡くして一人暮らしをしている男性高齢者を設定しました。移動の不便を感じていたり、詐欺被害への不安を抱えている人物です。

#### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「近所と声かけをしながら助け合えること」、「歩いていける場所に交流や相談できる場があること」、「家事援助などがしてもらえること」などがあげられました。

#### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

配り物があるときに声をかける、NPOによるコミュニティバスの運行、などのアイデアがあげられました。また家事に不慣れな男性者ということで、ワンコインヘルシーメニューをつくる、男性のボランティアグループをつくり、参加を促進する、という意見もあげられました。



## 【Bグループ】

### ア. 優先課題 「親子での地域における交流の場の減少」

このような優先課題を抱えている人物として、名古屋市から転入してきたことにより、地域に知り合いのいない親子を設定しました。近所に同世代に子どもがおらず、親子ともに地域での交流がない、といった課題を抱えている人物です。

### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「親と同居し、安心して生活できること」、「趣味つながりで交流の輪が広がること」、「母親同士の交流から地域のつながりにつながっていくこと」、「子どもを通じたつながりがあること」などがあげられました。

### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

地域住民が積極的にあいさつをし、交流を持つこと、防災会等の行事に誘い出すこと、といった意見、また親が積極的に子どもと一緒に地域のイベントに参加することで、顔見知りの関係が広がっていくのではないかと、という意見があげられました。



## 【Cグループ】

### ア. 優先課題 「高齢者が参加できる活動の縮小化」

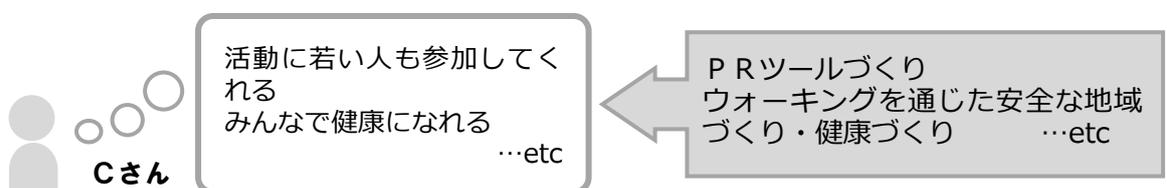
このような優先課題を抱えている人物として、サロンの運営や老人クラブの活動を精力的に行っている女性を設定しました。活動メンバーが広がらないこと、運営の負担があること、といった課題を抱えている人物です。

### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「若い層も含め、一緒に活動している人が増え、活動の輪が広がっていること」、「みんな健康になり、近所とも良い付き合いができていくこと」、「いつでも集える場所があること」などがあげられました。

### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

活動をPRできる場やツールをつくる、防災訓練など皆の関心の高い取り組みをきっかけに地域行事への参加を増やす、ウォーキングを通じて地域の安全づくりと健康づくりにつなげる、子どもの頃から近所づきあい・助け合いが大切であると教育する、曼陀羅寺や空き店舗、公会堂を活用し、身近で気軽に集まれる場所をつくる、というアイデアがあげられました。



**A** **さん**

○大をくし一人暮らししている女性高齢者(80歳代)  
 ○家のことは一通りできるが、ゴミ出し、買い物などはひとりで手慣れておえたらと思っている。特に移動に不便を感じている。サロンの老人クラブへの参加はしているが、一人で参加するのは気が引けること。交通手段がないことから参加しづらいと感じている。  
 ○市の広報誌で市議会議員としての記事を読んで不安を感じている。自分は夫と夫婦だと考えてはいるが、その前情報について質問と会話する機会もなく、誰かに気軽に相談できたらと思っている。

**さんのめざす“しあわせ”とは？**

近所のコミュニティ  
 生活の充実  
 健康維持  
 趣味の活動  
 地域とのつながり  
 家族との時間  
 孫との交流

**さんの“しあわせ”に向けて富田中学校区でできることは？**

交通安全教室  
 生活支援  
 健康講座  
 地域交流  
 家族支援

**B** **さん**  
**家族**

○孫世代同居、幼稚園に通う子ども。  
 ○婿、父、子どもの家でマンション住まい。名古屋から転入してきたため、地域に馴染みはない。  
 ○親子ともに地域での交流が少なく、幼稚園が終わった後は家で過ごすことも多い。  
 ○娘は子どもが小学校に入学したら幼稚園は就職したいと考えており、学校が終わった後の子どもの居場所について不安を感じている。  
 ○近所は同年代の子どもの数が少ない。親代の中心になどにも参加したことがない。  
 ○マンションのコミュニティセンターや、近所のイベントの参加やサークル仲間を感じることもほぼはない。しかし、近所との関わりが少ない人が多く、挨拶をしないこともあるため、注意などはできない。

**さん家族のめざす“しあわせ”とは？**

親の役割  
 生活の充実  
 地域でのつながり  
 子供を通じたつながり  
 家族の時間  
 健康維持  
 趣味の活動

**さん家族の“しあわせ”に向けて富田中学校区でできることは？**

交通安全教室  
 生活支援  
 健康講座  
 地域交流  
 家族支援

**C** **さん**

○サロンの電話や老人クラブの活動などを積極的にやっている女性。孫が、保育園、幼稚園に参加している人からは、楽しいし健康増進にもなっているという声も聞かれます。心づかいが広がっていることが嬉し。  
 ○サロン同士で話していると、一部サロンでは高齢化により運営の負担が大きくなっているという声も出ている。  
 ○様々な活動の内容を充実したいが、新たな人材の獲得に仕方わからずにいる。

**さんのめざす“しあわせ”とは？**

健康維持  
 生活の充実  
 地域とのつながり  
 家族との時間  
 孫との交流  
 趣味の活動

**さんの“しあわせ”に向けて富田中学校区でできることは？**

交通安全教室  
 生活支援  
 健康講座  
 地域交流  
 家族支援

## 優先課題① 一人暮らし高齢者の増加



Aさん

- ・妻を亡くし一人暮らしをしている男性高齢者（80歳代）。
- ・家のことは一通りできるが、ゴミ出し、買い物などちょっとしたことで手伝ってもらえたらと思っている。特に移動に不便を感じている。サロンや老人クラブへのお誘いはあるが、一人で参加するのは気が引けること、交通手段がないことから参加しづらく感じている。
- ・市の広報誌で詐欺被害についての記事を読んで不安に感じている。自分は大丈夫だろうと考えてはいるが、そういう情報について周りと会話する機会もなく、誰かに気軽に相談できたらと思っている。

### Aさんのめざす“しあわせ”とは？

#### 【近所とのコミュニケーション】

- ・生きがいを見つけられるようサポートする
- ・趣味の相手がほしい
- ・寂しさを持たせないように皆でお話する機会をつくる（サロンなどへの声掛け運動）
- ・皆でサロン等を勧めてあげる
- ・町内会の活性化
- ・飲み友人をつくるように勧める
- ・自分でできることで、ボランティアに参加
- ・地域で少人数のサロンを増やす
- ・親しい友人に定期的に声を掛けてもらう
- ・Aさんの好きなことをみんなでする
- ・いろいろなお話を聞いてあげる（不安に思っていること）
- ・一番近いお隣さんが声掛け等して、助け合いの精神でお互いに見守ってほしい
- ・話し相手の女性を紹介する（結婚？）
- ・隣近所の人との交流ができればいいな
- ・地区の行事に参加する
- ・歩いて行ける所に、交流や相談できる場がある

#### 【生活面の充実】

- ・有償サービス団体をつくって、家事補助をする
- ・独居老人の弁当利用
- ・運転ボランティアの利用をしてもらう
- ・買い物してもらえ、ごみ捨て場へ運んでもらえるなど、ちょっとした手伝いをしてもらえる
- ・買い物等は週に1~2度ぐらい同じ様な人で交替で行う

- ・元気に生活できるよう体操教室に参加してもらう
- ・Aさんの話を聞く（ニーズ把握）
- ・健康なんだろうか
- ・病気の相談ができる人がいると良い

### Aさんの“しあわせ”に向けて宮田中学校区でできることは？

- ・配りものの時、安否確認。声を掛ける
- ・声掛けチームをつくる
- ・地域の民生委員をもっと増やす。民生委員の補助員等
- ・子どもの訪問活動を実施

- ・ワンコインヘルシーメニューの拡大
- ・男の方ですので、食事の面でもお裾分けなどしていただけるようにしたい

#### 【男性向けの活動】

- ・男性のボランティアグループをつくる。そこに参加
- ・男性のサロンをつくる
- ・男性だけの情報交換のできる場があったらいい

- ・何事を行うにも金銭的に必要になるので、市からもっと補助金を出してもらえれば、タクシー、食事等も楽になるのではないかな
- ・一人暮らしのホームグループをつくる

#### 【交通手段の充実】

- ・自転車がほしい（廃自転車）
- ・気軽に出掛ける移動手段がある
- ・NPOをつくって、コミュニティバスを運行する
- ・巡回バスがあったらいいな（足として）



B 家族

## 優先課題② 親子での地域における交流の場の減少

- ・ 30 歳代母親、幼稚園に通う子ども。
- ・ 母、父、子どもの一家でマンション住まい。名古屋市から転入してきたため、地域に知り合いはいない。
- ・ 親子ともに地域での交流が少なく、幼稚園が終わった後は親子で家で過ごすことも多い。
- ・ 母親は子どもが小学校に通う頃には復職したいと考えており、学校が終わった後の子どもの居場所についても不安を感じている。
- ・ 近所には同世代の子どもが少ない。地区のイベントなどにも参加したことがない。
- ・ マンションのゴミ出しマナーや、近所のペットの散歩マナーに疑問を感じることもしばしばある。しかし、近所との関わりが少ない人が多く、挨拶をしないこともよくあるため、注意などはできないでいる。

### Bさんのめざす“しあわせ”とは？

#### 【親との同居】

- ・ お爺ちゃん、お婆ちゃん、元気な身内を呼ぶ
- ・ お年寄りがいるといい
- ・ 若世帯が親と住むこと

#### 【趣味つながり】

- ・ 小物などを作り、皆さんに見てもらう。発表する場所はたくさんある
- ・ 公園に出掛ける。曼陀羅寺、フラワーパーク、音楽寺など（花の道）

#### 【地域のつながりがある】

- ・ 母親同士が仲良くなれば、地域の行事に誘い合っていけるようになると思います
- ・ お父さんも地域や近所の方と親しくできる
- ・ マンションの関わりがあるとよい
- ・ みんなで集まる場があれば相談できる
- ・ 市の広報等見てイベントに出席。ボランティア、フラワーパークなど
- ・ 学童保育料の値上げはいらないでほしい。少子高齢化対策に反する
- ・ ご近所と交流でき、子どもを預けて安心して働ける
- ・ 近所の人と笑顔で会話できる
- ・ 夫婦、子ども、家族で地域に溶け込める
- ・ 困った時に相談できる人がいる。助けてもらうことができる

#### 【子どもを通じたつながりがある】

- ・ 地域の行事や活動に気楽に参加できる
- ・ 幼稚園でお友達をつくる（子ども同士）
- ・ 一人でも仲良くなれたら、次第にお母さん同士も話すようになります
- ・ 知り合いを増やす。買い物、幼稚園のママ友、近くの人、お店（美容室）、薬局など

### Bさんの“しあわせ”に向けて宮田中学校区でできることは？

#### 【趣味・サークル】

- ・ ラジオ体操をやる
- ・ スポーツ大会を開く（ドッチボール、卓球、バドミントンなど）
- ・ 地域、マンション、幼稚園、小学校などの役員を受け、顔を覚えてもらう
- ・ 健康のために江南名所巡りで、みんなとコミュニケーションを図る
- ・ 老人クラブはいろいろとやっている。何か参加できることは？

#### 【地域の行事】

- ・ 地区のボランティアに子どもと一緒に参加する
- ・ 自分から自治会とかに入ることの行動を起こすように声を掛ける
- ・ 地域の役をする
- ・ 地区のイベントに参加する
- ・ ごみ出し等の当番をして交流する
- ・ 防災会の行事に誘い出す
- ・ 地域の行事やイベントを実施する
- ・ 地域の活動に参加してもらう（当番、地域の役員をやってもらう）
- ・ 自治会の活動に参加する
- ・ 子ども会に入って、行事に参加する

#### 【あいさつ】

- ・ 子ども達に声を掛ける
- ・ 外で B さん家族に会ったら、挨拶をする

## 優先課題③ 高齢者が参加できる活動の縮小化



- ・サロンの運営や老人クラブの活動などを精力的に行っている女性。
- ・活動に参加している人からは、楽しいし健康増進にもなっているという声も聞くが、なかなかメンバーが広がっていかないことが悩み。
- ・サロン同士で話していると、一部サロンでは高齢化により運営の負担が大きくなっているということも出てきている
- ・様々な活動の内容を充実したいが、新たな人材の獲得の仕方がわからずにいる。

### Cさんのめざす“しあわせ”とは？

#### 【仲間づくり】

- ・活動案のヒントをもらえる仲間
- ・参加人数が増える
- ・もっとたくさんの方がサロンに来るとよいと思う
- ・活動の輪が広がってきている
- ・友達がほしい
- ・一緒に活動してくれる人がいる
- ・活動を一緒に推進してくれる人が複数できる

#### 【若い人を誘うには？】

- ・若い人達がサロンの運営に協力してくれるとよい（50～60代？）
- ・若い人が参加してくれる
- ・50～60代だと働いていたたり、孫の面倒を見ているから参加しにくい？一緒に参加できるとよい

#### 【広く知ってもらおう】

- ・サロン、老人クラブの活動をみんなに広める機会があるとよい
- ・活動内容・状況を広く知ってもらえる

#### 【みんなで幸せになる】

- ・ありがとうと言ってもらえる
- ・住民みんなが毎日楽しく過ごせるとよい

#### 【将来の安心】

- ・将来不安で、安心して住めるところが確保できればよい

#### 【みんなで健康になる】

- ・健康でいたい
- ・みんなが健康に過ごせるとよい
- ・健康な70代、友達ができるのが楽しいと思える

#### 【近所と良い付き合いができる】

- ・近所の人達とも仲良くでき、困ったことが起きたとき、助けられるそんな関係を

#### 【移動の手段】

- ・送迎ができる

#### 【移動の手段】

- ・世代を越えて誰でも気軽に集える場所づくり
- ・子連れでカフェみたいな場所もあるといい
- ・いつも集える場所がある
- ・都合が悪いときは気軽に欠席できる
- ・居場所がほしい
- ・サロンに子どもが参加する
- ・いつでも参加できるサロン（常設）ができるといい
- ・お年寄りだけではなく、いろんな人が集まれる場があるといいな

## Cさんの“しあわせ”に向けて 宮田中学校区でできることは？

### 【区長さん、民生委員さんの協力】

- ・一人暮らしの人が把握できる資料があるとよい(名簿)
- ・活動内容・状況を広く知ってもらえる

- ・最近、地域行事に参加しない人も増えていますが、防災訓練なら集まる場の参加率も増えるかもしれないです

### 【広告の方法を考える】

- ・活動報告の場やツールがある(口コミが一番か?)

### 【中学校の文化セミナーとか活躍の場所をつくる】

- ・得意分野を活かせるといい

### 【ウォーキングと見回りで安心な町づくり】

- ・一人暮らしでも不安なく、少なく、過ごせるように。夜間の不安

### 【学区の中でのウォーキングコースを考える】

- ・ウォーキングコースをつくる(いろいろな出発地点から)
- ・子どもの通学路でのウォーキングでスクールガード&子どもの見守り
- ・通学路のマップがあると、それに合わせて散歩しやすい
- ・ウォーキングサークルがあるとよい

### 【気軽に運動できる場所と仲間】

- ・健康維持のため、運動教室の開催(地域での)
- ・健康を保つために、体操教室などが身近にあるといいなあ。誰でも参加できるように
- ・高齢者用の健康器具が身近な公園にある
- ・ラジオ体操や太極拳などの集まり

### 【近所の付き合いを子どもに】

- ・子ども時代からの教育(近所付き合い、助け合いは大事)

### 【身体の不自由な人と対応を学ぶ】

- ・送迎のため、車の乗り降りなどのボランティアの研修

### 【身近で気軽に集まれる場所をつくる】

- ・小学校や中学校の行事に参加できるといいなあ。見に行くだけでも
- ・歩いて行ける近さに集まれるといい
- ・曼陀羅寺の活用、公園(蘇南公園)
- ・空き店舗や公会堂などが使用できるようにする
- ・常設のサロンや子連れカフェに協力してくれそうな店舗を探してほしい
- ・くるみのカフェ、出張カフェ、団地に来てほしい(パンとコーヒー)

## (4) 布袋中学校区

### ① 第1回の結果

#### 【Aグループ】

布袋中学校区Aグループでは、主に「交通の不便さ」「スーパーや病院、銀行等の施設」に意見があげられました。

特に高齢者の外出については、移動手段がないこと、近くに施設がないことから不便を感じている人が多くなっています。それに関連して、一人暮らし高齢者の増加による生活面・安全面のフォローが十分でないことも課題としてあがっています。フォローを充実する必要がある一方で、訪問しても出て来ない人もおり、なかなか介入できないでいる、という声もあげられました。

その他、老人クラブの会員の減少、サロン参加者の固定化なども課題としてあげられています。

#### 【Bグループ】

布袋中学校区Bグループでは、Aグループと同様、高齢者の移動手段の制約の問題、住民の実態把握の困難さが課題としてあげられました。

公共交通機関に不便があり、店なども近くにないことから、日常生活に不便を感じている人が多くなっています。

また、一人暮らし高齢者の増加などから困りごとを抱えている世帯があることはうかがえるものの、どこにどのように困っている人がいるのか、といったところの把握ができないことも課題となっています。

Bグループでは、校区の魅力として、ボランティア活動や地域活動の活発さが多くあがっていることが特徴となっています。その一方で、担い手の高齢化による負担増などの現状も見受けられ、なり手不足が課題となっています。

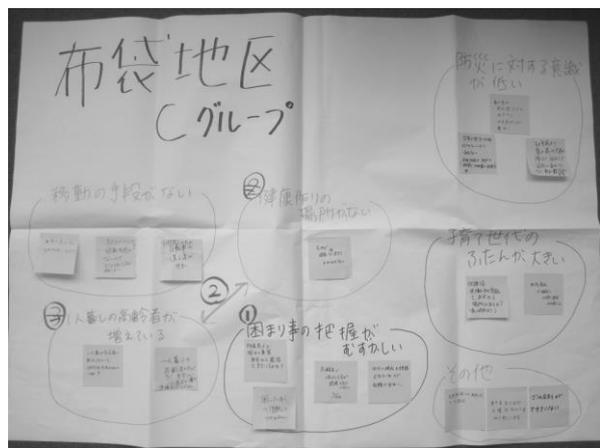
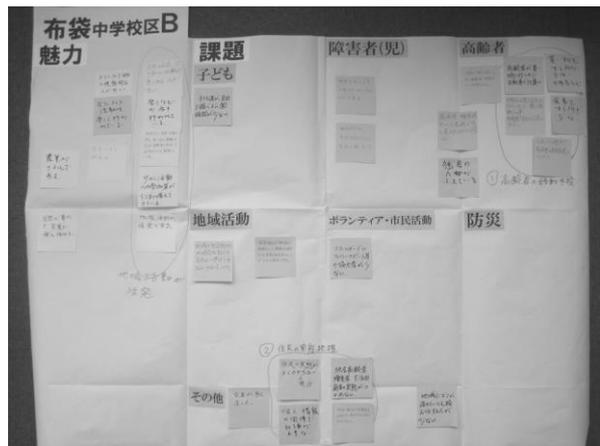
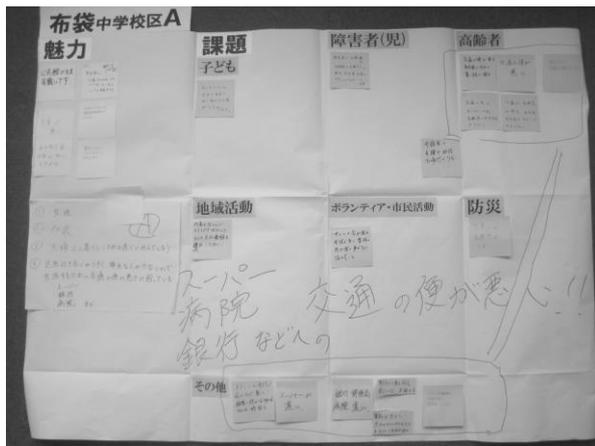
#### 【Cグループ】

布袋中学校区Cグループでは、Bグループと同様、住民の実態把握の困難さが優先課題としてあげられました。どこにどのような人がいるのかわからない、という意味での実態の把握の困難さに加え、それがわかっている場合であっても、「困りごと」という観点が人によって違っており、そういう意味で誰にどのような支援をしていくべきなのかの見極めが難しい、という意見が出ました。

また、一人暮らしの高齢者が増えていること、市の健康づくりの場所がないことも課題としてあがっています。健康づくりの集い・交流の場ともなり、本人の生活機能の向上にもつながるため、健康増進のための取り組みを進めていく必要があります。

他のグループと同様、移動手段の制約についても意見があがっています。

Cグループでは、地区の魅力に対する意見が多くあげられました。自主的なボランティア活動や、地域活動の活発さなどが意見として出ており、地域に愛着を持つ人が多いこと、地域とのつながりが深い人が多いことがうかがえます。



## ② 第2回の結果

第1回の結果を受け、2つの優先課題・2人の登場人物を設定し、それぞれAグループ、Bグループで話し合っていました。

### 【Aグループ】

#### ア. 優先課題 「生活に不安を抱える高齢者への支援」

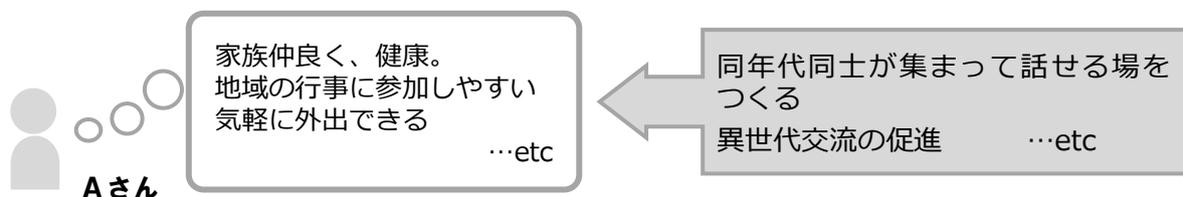
このような優先課題を抱えている人物として、30年以上集合住宅に住んでいる女性高齢者を設定しました。近くに頼れる人がおらず、健康についても不安を感じている人物です。

#### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

個人としては、「家族との仲もよく、健康で過ごせ、自分で買い物などにもいけること」などがあげられています。地域における幸せについては、「仲間がいること」、「声をかけあえる近所さんがいること」、「地域の行事に参加しやすいこと」、「気軽に外出できる移動手段があること」、「災害時などの緊急時にもすぐにつけてくれる人がいること」などがあげられました。

#### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

パトロールも兼ねて、同年代で集まって歩く、公民館で健康教室を開く、といった意見が出ました。地域の行事への参加については、お祭りなど、集まりやすいイベント時に声をかけて同年代が集まれる場をつくり、そこから輪を広げていく、サロン活動をもっとPRし、参加しやすい雰囲気をつくる、子どもと高齢者の異世代交流の場をつくる、という具体的なアイデアがあげられました。



【Bグループ】

ア. 優先課題 「困りごとを抱えた人の把握と支援」

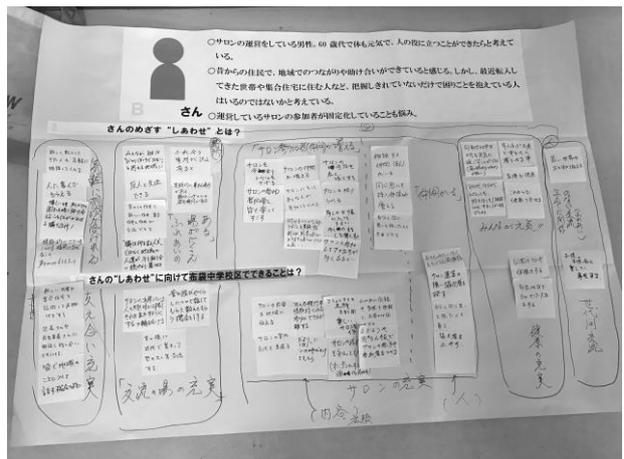
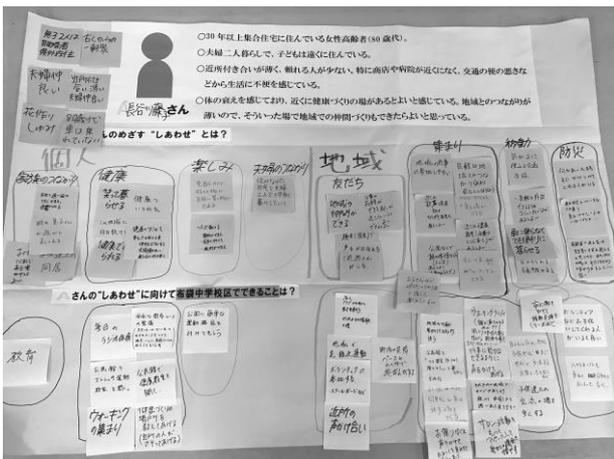
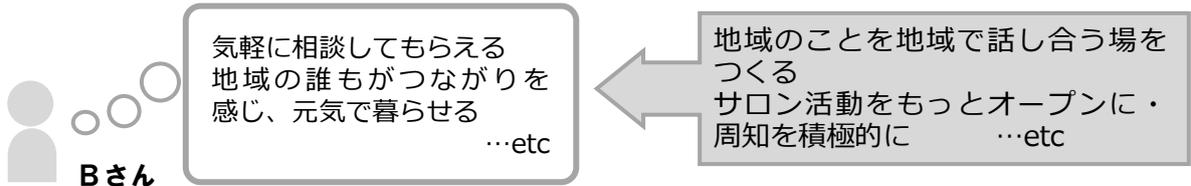
このような優先課題を抱えている人物として、サロンの運営をしている男性を設定しました。地域とのつながりの多い地区であることを実感しつつも、最近転入してきた人など、困りごとを把握しきれていないこと、またサロン活動の参加者も固定化していることを課題に感じている人物です。

イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「新しく転入してきた人も気軽に相談してくれ、人に喜んでもらえること」、「地域にふれあいの場がたくさんあり、「一人ぼっちではない」と誰もが感じられる地域となっていること」、「サロン参加者が増えること」などがあげられました。

ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

地域のことについて地域で話し合う場をつくる、昔の遊びや暮らしについて話をする機会をつくる、近所で集まって炊き出し等をする、といった具体的なアイデアがあげられました。また、サロン活動については、まずは活動の存在自体をもっとPRすべきとし、区だよりや回覧板による周知・広報、もっと活動をオープンにし、誰の参加でも受け付ける、という意見があげられました。



## 優先課題① 生活に不安を抱える高齢者への支援



Aさん

- ・ 30年以上集合住宅に住んでいる女性高齢者（80歳代）。
- ・ 夫婦二人暮らしで、子どもは遠くに住んでいる。
- ・ 近所付き合いが薄く、頼れる人が少ない。特に商店や病院が近くになく、交通の便の悪さなどから生活に不便を感じている。
- ・ 体の衰えを感じており、近くに健康づくりの場があるとよいと感じている。地域とのつながりが薄いので、そういった場で地域での仲間づくりもできたらよいと思っている。

### Aさんのめざす“しあわせ”とは？

#### 【家族のつながり】

- ・ 子どもと週1回は電話できる。連絡がとれる
- ・ 時々、息子さんが遊びに来てくれる
- ・ 子ども達との同居
- ・ 子ども達が心配して、毎日電話をかけてくれるとよい

#### 【健康】

- ・ 笑って暮らせる
- ・ 健康でいられる
- ・ この地域に住み続けられる
- ・ 健康に過ごせる。幸せを感じる。便秘でなくなる、関節痛がない、夜トイレに行かない
- ・ 健康でいられる

#### 【楽しみ】

- ・ 宅配などで好きなものが気軽に買い物ができる
- ・ 一人で動ける（買い物ができる、食事に行ける、旅行ができる）

#### 【夫婦のつながり】

- ・ 住み慣れた自宅で夫婦二人で仲良く暮らしていく

### Aさんの“しあわせ”に向けて 布袋中学校区でできることは？

#### ・ 教育

- ・ 毎日のラジオ体操
- ・ 公民館でストレッチ運動教室を開く
- ・ ウォーキングの集まり
- ・ 安全な散歩コースの整備（スタート → ゴールのモデルコースをつくり、地点ごとに看板（〇〇km 地点）を立てる等）
- ・ 公民館で健康教室を開く
- ・ 健康づくりの場所を教えてあげる（近所の人を誘ってあげる）

- ・ 公園に簡単な運動器具を付けてもらう

## Aさんのめざす“しあわせ”とは？

### 【友達】

- ・地域の仲間ができる
- ・日常のお話ができる友人が近くにいるとよい
- ・お友達（仲間）をつくる
- ・趣味（園芸）で相談したり、花をあげたり、貰ったりできる人に出会えるとよい
- ・声を掛け合えるご近所さんがいる

### 【集まり】

- ・地域の行事に参加しやすい
- ・気軽な地域とのつながり（あまり負担にならない）
- ・近くに歌声喫茶またはカラオケ教室もあるとよい
- ・近所に同じ年代の人が集まる場ができる
- ・近くに健康教室（会費はとて安く）があるとよい
- ・公園などで朝の（ラジオ）体操などがあるとよい（集まれる人で）
- ・友人で集まって、ウォーキングができる
- ・お子さんなど世代の違う方と接して、楽しめる

### 【移動】

- ・気軽に使える交通手段
- ・気軽に外出できるように、コミュニティバスがあるとよい
- ・車に乗らなくても、便利に暮らせる
- ・必要な時に出掛けられる交通手段がある

### 【防災】

- ・何かあった時、直ぐ駆けつけてくれる人がいる
- ・集合住宅はいろいろな人の集まり。気難しい人がいないように・・・
- ・高齢者で住む家は、災害等に不安を感じると思うので、台風などの時は、市（？）等からの声掛けをすると心強い

## Aさんの“しあわせ”に向けて 布袋中学校区でできることは？

- ・老人クラブ活動に出てもらう。行政からの援助の増
- ・地域で花・緑化運動
- ・ボランティアに参加する。スクールガードなど
- ・町内の共有スペースにみんなで花壇をつくる
- ・近所の声掛けあい

- ・地域の行事に参加してもらうよう誘う
- ・公民館で「〇〇教室（サークル）開きます」と告知し、実施する
- ・お祭りの時に、同年代が集まって話す場をつくる
- ・お祭りなどに声を掛けて、御神輿を見に来てもらったり、一緒に歩く
- ・ウォーキングクラブで（誰が声を掛けるのか？）ゆっくり呼吸を整えながら、町内を歩く
- ・地域の人が行事に参加できるように声をかけてあげる
- ・それぞれの地域にサロンがあります。歌ったり、体操したり、誘いあって来てください
- ・サロン活動をもっとアピールして、参加の機会を増やす
- ・80代の高齢世代、子ども世代、孫世代で交流する。お祭り、炊き出しなど
- ・子ども達との交流の場を多くする

- ・市に働きかけて、移動支援をしていただく

- ・ボランティアなどお手伝いしてくれる人がいるとよい
- ・パトロールも兼ねて、同年代で集まって歩く

## 優先課題② 困りごとを抱えた人の把握と支援



Bさん

- ・ サロンの運営をしている男性。
- ・ 60歳代で体も元気で、人の役に立つことができたらと考えている。
- ・ 昔からの住民で、地域でのつながりや助け合いができていていると感じる。しかし、最近転入してきた世帯や集合住宅に住む人など、把握しきれていないだけで困りごとを抱えている人はいるのではないかと考えている。
- ・ 運営しているサロンの参加者が固定化していることも悩み。

### Bさんのめざす“しあわせ”とは？

### Bさんの“しあわせ”に向けて 布袋中学校区でできることは？

#### 【気軽に相談が受けられる】

- ・ 新しく転入してきた人も気軽に相談してくれる
- ・ 人に喜んでもらえる
- ・ 嬉しいとき声を掛けたり、困った時に助け合える言葉が交わせる隣近所
- ・ 積極的に些細なことでも相談してもらえること。声を掛けてもらえること

#### 【支え合い充実】

- ・ 新しい世帯や集合住宅を訪問して声掛けをする
- ・ 区長さんや民生委員さんに相談し、話し合いを設ける
- ・ 皆で地域のことについて話す機会を持つ

#### 【ふれあいの場がたくさんある】

- ・ みんなが自分ば“一人ぼっちではない”と思える地域に
- ・ 友人と交流できる
- ・ 昔からの住民と新しい住民、集合住宅の住民が交流できる
- ・ “隣は何する人ぞ”ではなく、地域の人達が手を取り合い穏やかに暮らせる
- ・ ふれあう場所がたくさんあると
- ・ 定期的集まる場所がある。朝のモーニングコーヒーを飲む時間がある

#### 【交流の場充実】

- ・ サロンに出席している人の趣味を発掘し、それを生かすようにする → 輪を広げる
- ・ 昔の遊びや暮らしについて話しをしてもらう機会をつくる
- ・ 昔のように近所で集まって炊き出し等交流する

#### 【年齢に関係のない交流（ふれあい）】

- ・ 若い世帯の方と知り合える

#### 【世代間交流】

- ・ 子ども会と楽しいことをする

## Bさんのめざす“しあわせ”とは？

### 【サロン参加者（仲間）が増える】

- ・ サロンを今よりレベルを下げる
- ・ サロンの参加者が増え、皆で楽しく過ごす
- ・ サロンの仲間が増える
- ・ 何でもいいから好きなことを実施する。例えば、囲碁の会とかカラオケの会、ゴルフの会
- ・ サロンの内容を広く浅くする
- ・ サロンを続けられる
- ・ 多くの女性に入ってもらい、多くの話を楽しむ

### 【仲間がいる】

- ・ 相談する仲間（友人）がいる
- ・ 同じ思いを持つ仲間が増える
- ・ 自分と同じ思いを持った人と共有できる

### 【みんなが元気】

- ・ 同年代の地元の方も元気に過ごすことができる（茶を飲んだり、つながりが続く）
- ・ 80代、90代になっても好きなこと（相談にのる、サロン）が続けられる
- ・ みんなが元気で幸せに暮らせること
- ・ 家族も健康
- ・ これからも健康で過ごせる

## Bさんの“しあわせ”に向けて布袋中学校区でできることは？

### 【サロンの充実（内容・広報）】

- ・ サロンの内容を地域に伝える
- ・ サロンの案内方法を見直す
- ・ 町内の各種行事に積極的にみんなが参加できるよう広報する
- ・ “区だより”（月1回）や回覧板でサロンの呼び掛けをしてもらう
- ・ コミュニティの瓦版を利用して、楽しいサロンをつくる
- ・ サロンの存在を知ってもらう（オープンにする、誰でも参加OK）
- ・ ふれあい会館や学供で気軽にお茶飲み会をする

### 【サロンの充実（人）】

- ・ Bさんみたいな人をたくさん発掘する
- ・ サロン運営の強い協力者を探す
- ・ 自分と同じ思いを持った人を募る
- ・ 協力者を増やす

### 【健康の充実】

- ・ 布袋地区でウォーキング大会をする
- ・ 公園でラジオ体操をする（顔見知りになる）

## (5) 北部中学校区

### ① 第1回の結果

#### 【Aグループ】

北部中学校区Aグループでは、「独居高齢者の増加」「地域活動の継続性」「子ども会と通学の見守りの問題」が、今後6年間で取り組んでいくべき優先課題としても選定されています。

「独居高齢者の増加」については、見守りや安否確認の問題について意見が多くあげられました。安否確認のために訪問しても気づかれないことも多く、近くの人が見守る体制づくりも必要である、という意見が出ています。また、一人暮らしの高齢者も地区活動に参加したい気持ちはあるものの、様々な制約で参加できないことが心の負担となっている、という問題も指摘されています。

見守りの問題に関連して、見守り体制強化のため、それぞれ保護活動を行っている民生委員、区、地域の警察官の連携の必要性がある、という意見があがっています。また、「地域活動の継続性」について、アパート住民の地域活動の参加が少ない、年間行事が減っているなど、担い手の不足や参加者の縮小などによる地域活動の継続性への課題があがっています。

「子ども会と通学の見守りの問題」については、働く母親が増えていることにより子どもを支える活動が低調となっていること、子どもの通学時の見守りが少ないことが課題にあげられました。草井地区では「草井を元気にする会」を発足させ、子どもを支える活動を独自で行っている、という好事例も聞かれました。

グループを通じた話し合いのキーワードとして「見守り」という言葉が出ており、一人暮らし高齢者、子どもに対する見守りを通じた、安心して暮らせる地域づくりが求められています。

#### 【Bグループ】

北部中学校区Bグループでは、移動手段の問題や、近所づきあいの問題について多くの意見があげられました。

移動手段の問題については、交通の便が悪いという意見が多くなっています。また、一人暮らし高齢者が増えていることから、移動手段が少ないことで買物の不便や集いの場への参加に制約が出ている、といった課題が指摘されています。高齢者の集いの場に関しては、サロン活動が盛んである、という声がある一方で、活動が少ない、という声もあり、地区によってバラつきがあることも課題となっています。

「人とのつながりが多い」ことが魅力として多くあげられていますが、古くから住んでいる住民が多く、顔の見える関係づくりができている地区も多い反面、古くからの住民と新しい住民の交流機会が少ないことが課題としてあげられています。それに関連して、地域の協力意識を高め、担い手を増やしていくことが必要である、という声があがっています。

Aグループと同様、子どもの登下校時の見守りや、子ども会活動の縮小についても課題があげられました。

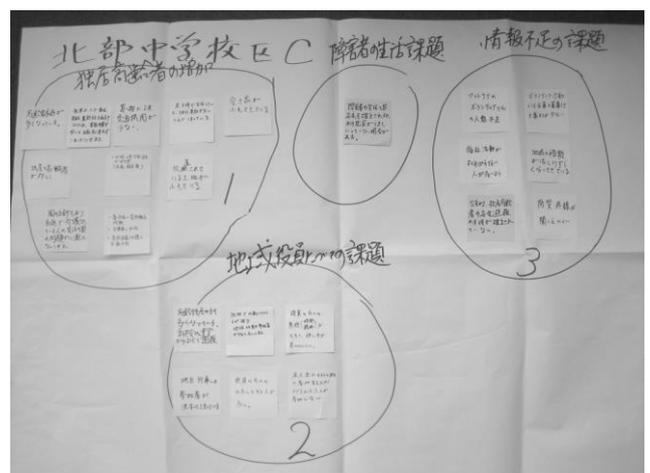
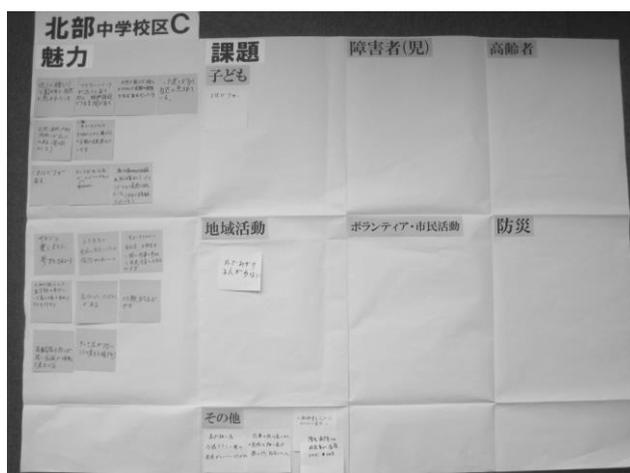
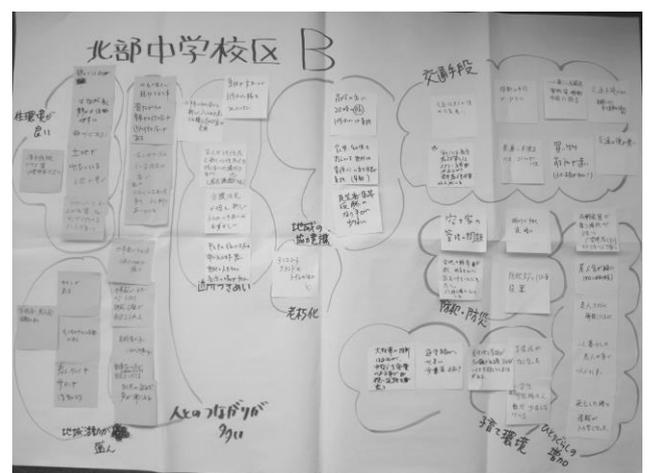
## 【Cグループ】

北部中学校区Cグループでは、「独居高齢者の増加」「地域役員についての課題」「情報不足の課題」が今後6年間で取り組んでいくべき優先課題として選定されました。

「独居高齢者の増加」については、公共交通機関の少なさ、運転免許の返還などから買物について不便を抱えている人が多いこと、家族介護の問題、生活支援の必要性などについて意見があげられました。

「地域役員についての課題」については、役員のなり手がいないこと、役員の負担が大きいことが課題としてあげられています。またそれに関連して、Aグループ、Bグループと同様、地域活動参加者の縮小化、少子化による子ども会の運営についての課題があがっています。

「情報不足の課題」については、「お助け隊」として活動している人がいる、という話が出たことをきっかけに、福祉やボランティアについての情報が十分に発信されていないことが課題にあげられました。地域で困りごとを抱えている人の情報が把握できないこと、災害時の要支援者に対する支援方法が確立できていないことなども、情報不足に関連する課題としてあげられました。



## ② 第2回の結果

第1回の結果を受け、3つの優先課題・3人の登場人物を設定し、それぞれAグループ、Bグループ、Cグループで話し合っていました。

### 【Aグループ】

#### ア. 優先課題 「一人暮らし高齢者の増加への対応」

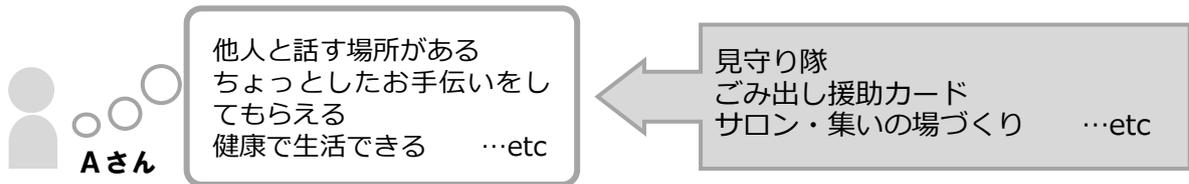
このような優先課題を抱えている人物として、戸建住宅に住んでいる女性高齢者を設定しました。近所に頼れる人がおらず、ごみ出しなどちょっとしたことに不便を感じている人物です。

#### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「週に一度くらい喫茶店やサロンなどで話す相手がいること」、「家のことを手伝ってもらえること」、「健康で生活し、自分のことは概ね自分でできること」などがあげられました。

#### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

民生委員の「補助」としての「見守り隊」をつくる、買い物は近所の人を分をまとめて行くことで負担を減らす、「ごみ出し援助カード」をつくる、といった具体的なアイデアが多く出ました。サロンや集いの場を近くにつくっていく、ということも全体的な目標としてあげられました。



### 【Bグループ】

#### ア. 優先課題 「地域での交流機会の充実」

このような優先課題を抱えている人物として、転入してきて1年程経つ、小学校低学年の子どもを持つ母親を設定しました。働いているために地域行事への参加もあまりできておらず、地域での子どもの安全についても不安を感じている人物です。

#### イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「地域で気軽に声をかけ合える関係ができていくこと」、「働いていても参加しやすいイベント・行事があること」、「地域の情報を自分も知ることができているし、地域のなかでも自分の子どもの存在を知ってもらえていること」などがあげられました。

#### ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

情報の発信をしていくこと、いろいろな人が参加できるイベントを考えること、といったことがあげられました。子どもの安全の確保については、登校途中の民家や商店に「見守り、気配り隊」をお願いする、という具体的なアイデアがあげられました。



【Cグループ】

ア. 優先課題 「ボランティア・福祉情報の発信」

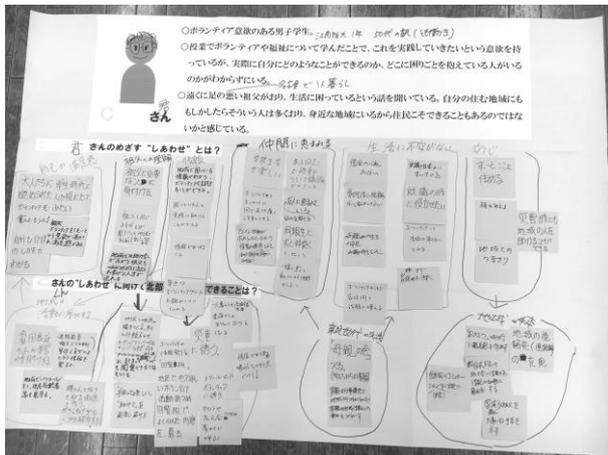
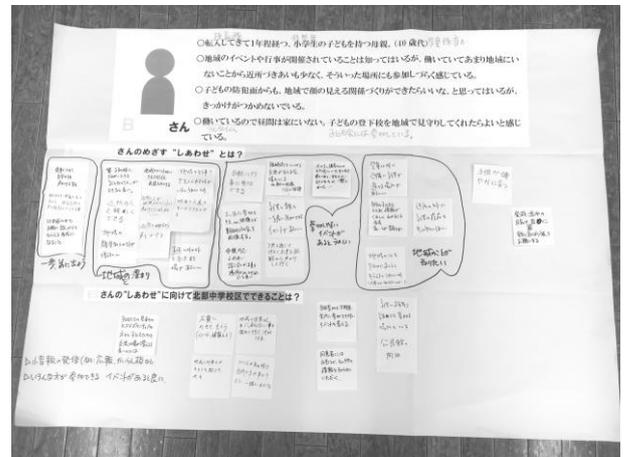
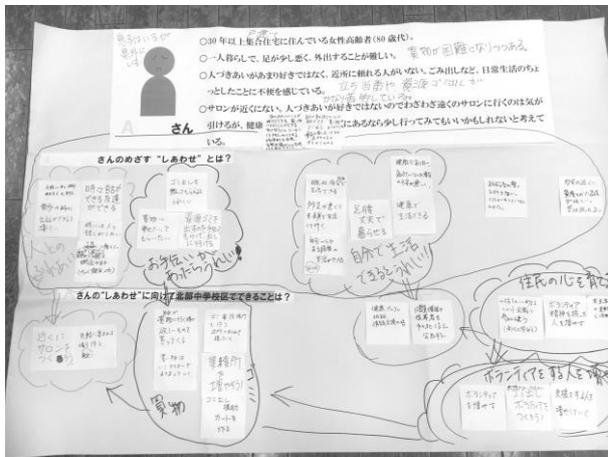
このような優先課題を抱えている人物として、ボランティア意欲のある男子学生を設定しました。ボランティアや福祉を実践していきたいものの、具体的な方法がわからないという課題を抱えた人物です。

イ. 達成すべき「しあわせ」のイメージ

「人の役に立つことで喜びが得られること」、「地域の困りごとの情報が発信されていること」、「ボランティアを通じて仲間ができること」、などがあげられました。

ウ. 「しあわせ」達成のために地域で取り組むべきこと

まずCさん自身が地域で今活動しているところに参加することがあげられました。また、地域の困りごとを見える化していく方法として、地域で困っている人と内容、必要なボランティアなどを募集し、それを回覧板にまとめてボランティアを募集する、という具体的なアイデアがあげられました。

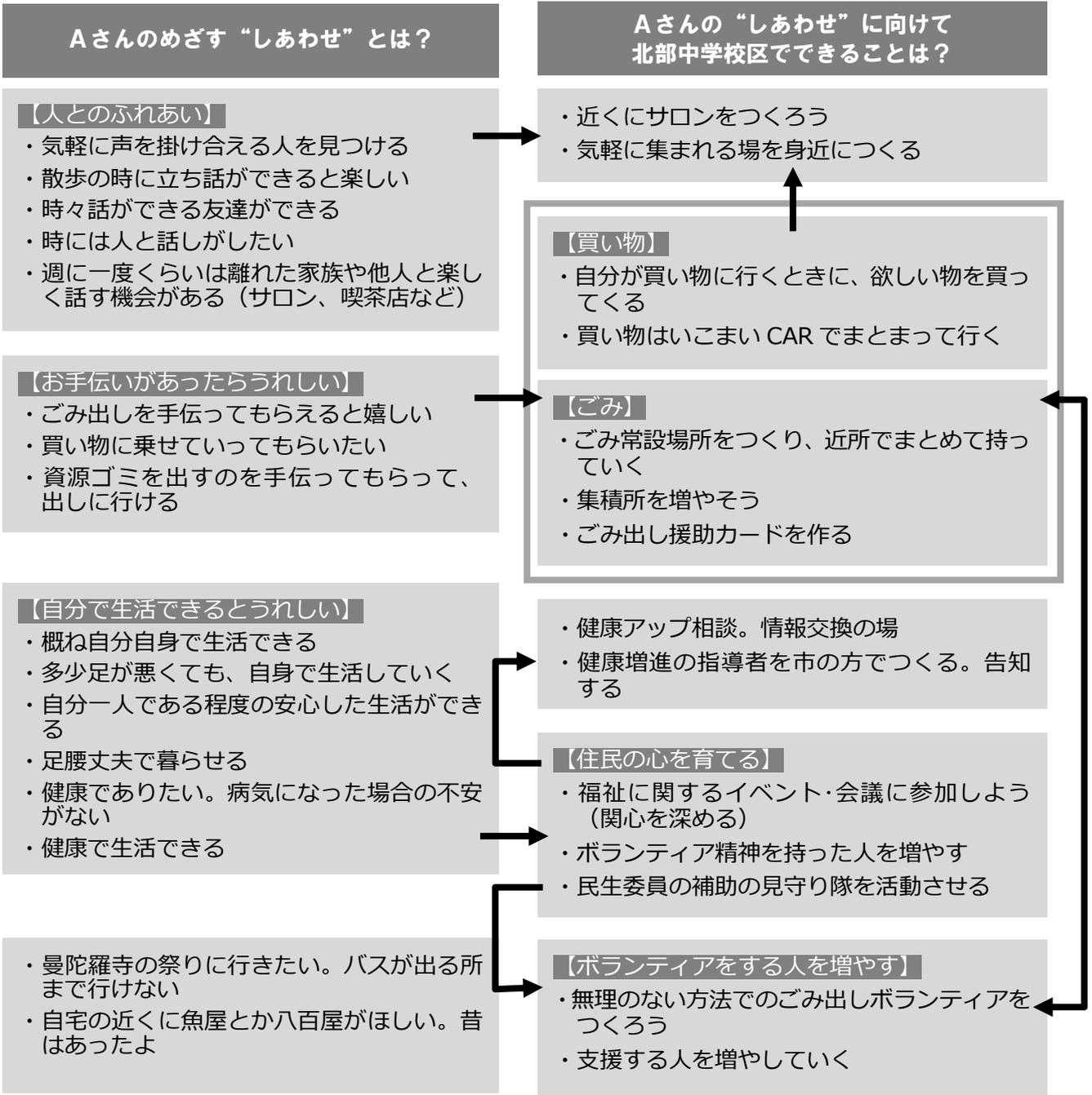


## 優先課題① 一人暮らし高齢者の増加への対応



Aさん

- ・戸建住宅に住んでいる女性高齢者（80歳代）。
- ・一人暮らしで、足が少し悪く、外出することが難しい。
- ・人づきあいがあまり好きではなく、近所に頼れる人がいない。ごみ出しなど、日常生活のちょっとしたことに不便を感じている。
- ・サロンが近くにない。人づきあいが好きではないのでわざわざ遠くのサロンに行くのは気が引けるが、健康づくりのためにも、近くにあるなら少し行ってみてもいいかもしれないと考えている。



## 優先課題② 地域での交流機会の充実



Bさん

- ・転入してきて1年経つ、小学校低学年の子どもを持つ母親。(40歳代)
- ・地域のイベントや行事が開催されていることは知っているが、働いていてあまり地域にいないことから近所づきあいも少なく、そういった場所にも参加しづらく感じている。
- ・子どもの防犯面からも、地域で顔の見える関係づくりができればいいな、と思っはいるが、きっかけがつかめないでいる。
- ・働いているので昼間は家にいない。子どもの登下校を地域で見守りしてくれたらよいと感じている。

### Bさんのめざす“しあわせ”とは？

#### 【一歩、前に出よう】

- ・受け身ではなく、自分からも声掛けをする
- ・自分の方から一歩前に出るようにし、まずは近所の方と話すようにしては
- ・地域の中で気軽に話し掛けてもらえる存在になること

#### 【地域との深まり】

- ・留守の時にお願いできる“お隣さん”ができるとよい
- ・地域の顔見知りの人が増えるといい
- ・地域のイベントなどに誘ってもらえる友達を見つける
- ・近所の方が地域のイベントに声掛けしてくれるといい
- ・地域の人達とすっかり打ち解ける
- ・班以外の人と交流する場があるといい

#### 【参加しやすいイベントがあると嬉しい】

- ・土、日に参加できる体操とか、集団遊びの会を開催する
- ・母親同士ふれあい、話し合いができる場所が見つけられたらよい
- ・短時間でよいかから交流が持てる会場をつくる。  
ex. 朝の体操、リズム体操
- ・子どもと親と一緒に参加できるイベントがあるとよい
- ・子どもを通じて仲良くできるよう、自分から声掛けしていく

#### 【地域のことが知りたい】

- ・学童以外で近隣に子どもが遊べる場所があるとよい
- ・地域のことを誰かに教えてもらえると嬉しいです(行事とか知らないの)
- ・近所の人に子どもの存在をもっと知ってほしい

- ・子どもが健やかに育つ
- ・登校途中の民家や商店に見守り、気配り隊をお願いする

### Bさんの“しあわせ”に向けて北部中学校区でできることは？

- ・情報の発信(例: 広報、回覧板など)
- ・いろいろな方が参加できるイベントがあると良い

- ・子ども達の見守りのKSVボランティアの方々  
と子ども達の交流の場が増えると良いのでは

- ・広報に載せてもらう(イベント、情報など)
- ・地域の行事とか決まりを教えてやる
- ・地域の役員さんにわからないことを聞きに行く。仲良くなる
- ・イベントがあるときは、近所の方が声掛けをし、一緒に出掛ける

- ・自由参加で不特定、全戸に参加しやすいイベントを考える
- ・同意者には氏名やその他の情報を知らせていただく

- ・子どもからお年寄り、誰でも集まれる場所をつくる
- ・公民館の開放

## 優先課題③ ボランティア・福祉情報の発信



Cさん

- ・ボランティア意欲のある男子学生。
- ・授業でボランティアや福祉について学んだことで、これを実践していきたいという意欲を持っているが、実際に自分にどのようなことができるのか、どこに困りごとを抱えている人がいるのかわからずにいる。
- ・遠くに足の悪い祖父がおり、生活に困っているという話を聞いている。自分の住む地域にももしかしたらそういう人は多くおり、身近な地域にいる住民だからこそできることもあるのではないかと感じている。

### Cさんのめざす“しあわせ”とは？

#### 【自己の満足感】

- ・大人達に認められたい
- ・学生時代に人の役に立ってみたい
- ・ボランティア先で喜んでもらえた
- ・自分も介護の仕方がわかる
- ・ボランティアをしたいという意欲が満たされ満足感がある

#### 【祖父への理解】

- ・祖父に必要なことに気付ける
- ・祖父と同じ様な方が、困り事を地域で支え合える安心できるまち
- ・地域での助け合いが広がり、祖父も地域で支えられ幸せな人生が送れる

#### 【情報】

- ・地域で困っている情報がわかり、ボランティアを実践することができた
- ・身近なボランティアグループと顔見知りになれる
- ・どんな活動が求められているかの情報が提供されている

#### 【仲間に恵まれる】

- ・学校生活が楽しい
- ・ボランティアをきっかけに、同じ年代層と活動できる
- ・友人同士で将来について議論できている
- ・悩みを話せる友人に恵まれている
- ・同級生とずっと仲良くしたい
- ・一緒に考えて動いてくれる仲間がいること

#### 【生活に不安がない】

- ・借金の心配がない
- ・学生生活に経済的な心配がない
- ・両親の生活の安定。両親の仲もそこそこ
- ・就職の目途が立っている
- ・ボランティアをして、学校の単位が取れる
- ・ボランティアのことで家族間で話題が増える
- ・まず家族が仲良く

#### 【安心】

- ・ずっとここに住める
- ・顔の見える地域とのつながり
- ・災害時にも地域の人を助けることができる

### Cさんの“しあわせ”に向けて北部中学校区でできることは？

#### 【地域の活動に参加する】

- ・貧困家庭の子に学習の手助けをする
- ・消防団員、粗大ごみの分別等の人員がいるという情報を発信する
- ・地域でパトロールをし、独居高齢者等を見守る
- ・彼のの人となりを知る関係をつくり、ボランティアグループを紹介する

- ・地域との交流の場をつくる。声を拾う、顔合わせ。(グランドゴルフの企画(子ども～高齢者)、囲碁、将棋)

- ・地域で困っている人と内容の情報が一ヶ所にまとまって、いつでも閲覧できる仕組みをつくる
- ・“手伝ってほしい”、“助けて”を発信し、届ける
- ・ボランティアの情報発信。回覧板
- ・地区でやってほしいボランティア活動集め

- ↓
- ・回覧板でよく似た内容を募る
- ・一人暮らし高齢者・世帯への資源ゴミの手伝いボランティアをつくる
- ・災害訓練に誘う
- ・スクールガードボランティアに誘う
- ・サロンや老人会などの集まりに呼ぶ
- ・情報が集まる場所を地域でつくる

#### 【親世代の交流】

- ・「母親の会」をつくる(母達からの情報)
- ・男親は仕事優先で、地域とのつながりが少ない。男親の地域活動への参加を促す

#### 【地域の手本】

- ・「あいさつ」の励行で、親近感をつくり出す
- ・地域の連絡先(連絡網)の充実
- ・住民間のコミュニケーション(交流)を活発にする
- ・住民同士の助け合い活動を活発にする
- ・(家族で)祖父を親が大事にする手本を示す